



# CHAPTER 12

## Cisco Unity Connection 9.x での規制テーブルの管理

次の項を参照してください。

- 「Cisco Unity Connection 9.x のデフォルトの規制テーブルの概要」 (P.12-1)
- 「Cisco Unity Connection 9.x の規制テーブルの作成」 (P.12-2)
- 「Cisco Unity Connection 9.x の規制テーブルの変更」 (P.12-3)
- 「Cisco Unity Connection 9.x の規制テーブルの削除」 (P.12-4)

## Cisco Unity Connection 9.x のデフォルトの規制テーブルの概要

Cisco Unity Connection には、次の事前定義済みの規制テーブルが用意されています。これらのテーブルは（名前の変更を含めて）変更できますが、削除できません。デフォルトでは、上記のいずれの規制テーブルでも、長距離電話番号へのアクセスは禁止されています。

<b>デフォルトのファクス (Default Fax)</b>	ファクス配信用の番号を制限します。
<b>デフォルトの発信ダイヤル (Default Outdial)</b>	メッセージ通知用の番号を制限します。Media Master で、録音および再生デバイスとして電話機が選択されている場合は、Connection がダイヤルするユーザの内線番号も規制されます。
<b>デフォルトのシステム転送 (Default System Transfer)</b>	識別できない発信者を指定した番号に転送するための発信者システム転送に使用できる番号を制限します。たとえば、発信者は Connection ユーザに関連付けられていないロビーまたは会議室の電話にダイヤルする場合があります。この規制テーブルではデフォルトで、Connection がいずれの番号にもダイヤルできないように設定されています。
<b>デフォルトの転送 (Default Transfer)</b>	通話転送用の番号を制限します。

<b>ユーザが定義した代行内線番号 (User-Defined Alternate Extensions) と自動的に追加された代行内線番号 (Automatically-Added Alternate Extensions)</b>	Cisco Personal Communications Assistant などのインターフェイスや API コールを通じて、自らに対して代行内線番号を作成するために使用できる番号を規制します。また、電話番号が代行内線番号として提供されることを規制します。たとえば、ロビーや会議室の内線番号をブロックすると、これらの共有電話から頻繁に Connection に電話をかけるユーザには、その番号を代行内線番号として追加するかどうかのプロンプトが、自動的に表示されません。
<b>自動的に追加された代行内線番号制限に対する除外内線番号 (Excluded Extensions for Automatically Added Alternate Extensions)</b>	電話番号が代行内線番号として提供されることを規制します。たとえば、ロビーや会議室の内線番号を追加すると、これらの共有電話から頻繁に Connection に電話をかけるユーザには、その番号を代行内線番号として追加するかどうかのプロンプトが、自動的に表示されません。

規制テーブルの機能の詳細については、「[規制テーブルが機能する仕組み](#)」(P.4-7) を参照してください。

## Cisco Unity Connection 9.x の規制テーブルの作成

事前定義済みの規制テーブルは変更できます。また、新規の規制テーブルは 100 個まで作成できます。さらに、100 個までのダイヤル スtring をテーブルに追加できます。新規ダイヤル文字列は、自動的に規制テーブルのダイヤル文字列 0 に挿入されます。Cisco Unity Connection は、電話番号を規制テーブルのコール パターンと比較するときに、ダイヤル文字列 0 から始めて順に比較するため、ダイヤル文字列の順序が非常に重要になります。番号が複数のダイヤル パターンと一致する場合、その番号は最初に一致したダイヤル パターンに従って処理されます。

ダイヤル パターンを指定する場合、特定の番号を入力することも、次の特殊文字をワイルドカードとして使用することもできます。

*	0 個以上の数字に一致します。
?	1 個の数字に一致します。? は、1 個の数字のプレースホルダとして使用します。
#	電話機の # キーに相当します。

すべての規制テーブルには、最後のダイヤル文字列のコール パターンとして \* がデフォルトで設定されています。このコール パターンの設定は変更できません。この設定によって、入力された番号が規制テーブルのどのコール パターンとも一致しない状況が回避されるためです。ただし、このダイヤル文字列の [ブロック (Blocked)] フィールドを変更し、ある番号を許可または禁止することは可能です。

### 新規の規制テーブルを作成するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[システム設定 (System Settings)] を展開して [規制テーブル (Restriction Tables)] を選択します。
- ステップ 2** [規制テーブルの検索 (Search Restriction Tables)] ページで [新規追加 (Add New)] を選択します。

- ステップ 3** [規制テーブルの新規作成 (New Restriction Table)] ページで、該当する基本設定を入力します (フィールドの詳細については、[ヘルプ (Help)] メニューの [このページ (This Page)] を選択してください)。



(注) \* (アスタリスク) マークの付いたフィールドは必須です。

- ステップ 4** [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 5** 規制テーブルにパターンを追加するには、[規制テーブルの基本設定の編集 (Edit Restriction Table Basics)] ページの [規制パターン (Restriction Patterns)] ボックスで、[新規追加 (Add New)] を選択します。
- ステップ 6** パターンで何らかの設定を変更した場合は、[保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 7** 許可または規制するすべてのパターンを追加するまで、[ステップ 5](#) と [ステップ 6](#) を繰り返します。
- ステップ 8** パターンの順序を変更するには、[順序の変更 (Change Order)] を選択してから、次の手順に従います。
- パターンをリスト内で移動するには、[規制パターンの順序の変更 (Change Restriction Pattern Order)] ページでパターンを選択し、必要に応じて上向き矢印または下向き矢印を選択します。
  - パターンの順序変更が終了したら、[保存 (Save)] を選択します。
  - [規制テーブルの編集 (Edit Restriction Table)] ページに戻るには、[編集 (Edit)] メニューの [規制テーブルの編集 (Edit Restriction Table)] を選択します。
- ステップ 9** パターンをリストから削除するには、パターンの左側にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] を選択し、[OK] を選択して削除を確定します。

## Cisco Unity Connection 9.x の規制テーブルの変更

### 規制テーブルを変更するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[システム設定 (System Settings)] を展開して [規制テーブル (Restriction Tables)] を選択します。
- ステップ 2** [規制テーブルの検索 (Search Restriction Tables)] ページで、変更する規制テーブルの表示名を選択します。



(注) 変更する規制テーブルが検索結果テーブルに表示されていない場合は、ページ上部の検索フィールドで適切なパラメータを設定し、[検索 (Find)] を選択します。

- ステップ 3** 規制テーブルにパターンを追加するには、[規制テーブルの基本設定の編集 (Edit Restriction Table Basics)] ページの [規制パターン (Restriction Patterns)] ボックスで、[新規追加 (Add New)] を選択します。
- ステップ 4** パターンで何らかの設定を変更した場合は、[保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 5** 許可または規制するすべてのパターンを追加するまで、[ステップ 3](#) と [ステップ 4](#) を繰り返します。
- ステップ 6** パターンをリストから削除するには、パターンの左側にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] を選択し、[OK] を選択して削除を確定します。

- ステップ 7** パターンの順序を変更するには、[ 順序の変更 (Change Order) ] を選択してから、次の手順に従います。
- パターンをリスト内で移動するには、[ 規制パターンの順序の変更 (Change Restriction Pattern Order) ] ページでパターンを選択し、必要に応じて上向き矢印または下向き矢印を選択します。
  - パターンの順序変更が終了したら、[ 保存 (Save) ] を選択します。
  - [ 規制テーブルの編集 (Edit Restriction Table) ] ページに戻るには、[ 編集 (Edit) ] メニューの [ 規制テーブルの編集 (Edit Restriction Table) ] を選択します。
- 

## Cisco Unity Connection 9.x の規制テーブルの削除

### 規制テーブルの削除方法

---

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ システム設定 (System Settings) ] を展開して [ 規制テーブル (Restriction Tables) ] を選択します。
- ステップ 2** [ 規制テーブルの検索 (Search Restriction Tables) ] ページで、削除する規制テーブルの表示名の横にあるチェックボックスをオンにします。
-  **(注)** 削除する規制テーブルが検索結果テーブルに表示されていない場合は、ページ上部の検索フィールドで適切なパラメータを設定し、[ 検索 (Find) ] を選択します。
- ステップ 3** [ 選択項目の削除 (Delete Selected) ] を選択します。
-  **(注)** 削除する規制テーブルがサービス クラスから参照されている場合は、エラー メッセージが表示されます。この参照を調べて削除するまで、規制テーブルを削除できません。
- ステップ 4** 削除の確認を求めめるダイアログボックスで、[ OK ] を選択します。
-